

生みの親は「ThirdBrain SA」社！ “Sphynx”インタビュー

今回は、人気ストラテジーランキングでもお馴染となった“Sphynx”の開発会社インタビューをお届けします。

Sphynxの開発会社は、「ThirdBrain SA」社。

大人気ストラテジー “ThirdBrainFx”を開発した会社で

2012年3月創設以来、『Clever & Smart』をスローガンに自動売買プログラムの開発にあたっています。

その開発会社が見るSphynxとはどのようなストラテジーなのでしょう。

早速、ThirdBrainSA社のインタビューにうつりましょう。

Sphynxの名前の由来を教えてください。

Sphynxには2つの意味があります。1つはカナダ生まれの毛の無いネコの品種で、もう1つはみなさんも良くご存知のエジプト神話のスフィンクスです。どちらかというと、エジプトのスフィンクスの方が私たちのイメージに近いものです。というのも、このストラテジーの作成にあたっては非常に素晴らしいものができあがるだろうとは想像していましたが、細かい調整などに非常に多くの時間と労力が必要だったため「Sphynx」と名付けました。

ちなみに、このネーミングの由来についてお伝えするのはインヴァスト証券さんが初めてです。

Sphynxの開発の経緯や費やした年月などを教えてください。

Sphynxは、CCI(コモディティ・チャンネル・インデックス)という昔からある伝統的な売買サインをベースに

しています。様々な方法で試行錯誤をおこない、リリースするまでには3年も費やしました。

なぜそんなに時間がかかったのかというと、決済ロジックを決定するのがとても難しかったからです。

Sphynxの具体的なロジックの詳細について、ぜひお聞かせください。

Sphynxは基本的にCCIの売買ルールに従います。

しかし、このルールだけでは長期間収益の見込めるストラテジーは開発できないことがすぐわかりました。そして、私たちはこれにトレンドを把握するためのロジックを追加しました。(実際は1時間足チャートでトレンドを把握し、エントリーのシグナルとしてCCIのルールを使用しています。)

それから、決済のシグナルは150pipsの利益を得るという“収益管理”の観点からCCIの売買サインを利用していません。

Sphynxがパフォーマンスをあげる

ためには“風”が必要です。マーケットに風が吹けばSphynxは幾度となく多くの利益を生み出すでしょう。しかしながら、同時に大きなリスクもあり、“悪い風”を捕えてしまうかもしれません。Sphynxのドローダウンは決して低くありませんので、強い忍耐と“風に乗る”ための十分な資金を準備しておく必要があります。

Sphynxは綿密な資金管理のもとでは、GBP/AUDで1年間に12,000pips程度の利益をあなたにもたらすかもしれません。

どのような考えで、そのようなロジックを組み入れたのでしょうか？

値動きが激しいマーケットでも一瞬のチャンスを逃さないよう、このロジックを作成しました。

実際に開発を始めてからはどのような所に苦労されたのでしょうか？

もっとも難しかったのは指値と逆指値

の値をどう設定するかということですね。

それと同じくらい難しかったことは、トレンドの“波に乗る”ストラテジーとするため、あえて売買ロジックの長所に制限をかけなければならなかったことです。

Sphynxが上手く運用してくれる相場局面と苦手な相場局面は、どういうところですか？

長所はマーケットのトレンドを捉えて、最大限に利益をあげることです。Sphynxはトレンドの“匂い”を嗅ぎ分け、トレンドの“波”に上手く乗ることで収益をあげます。

しかしながら、この長所は短所にも

なりえます。なぜなら、相場の急変時には積極的に取引をしようとする「Sphynx」の運用停止を、投資家は正確に判断しなければならないからです。

Sphynxを稼働させるべき相場局面とはどういう場面でしょうか。また、手動決済した方がいいと思えるタイミングや停止した方がいいと思えるタイミングは、どういうときですか？

強いトレンドがあるときにSphynxは機能します。

逆に、トレンドレスとなったとき、損失を出し始めるかもしれません。

ほとんどの自動売買プログラムはトレンドレスのマーケットでは上手く機能いたしません。中長期の明確なトレンドが生じているとき、私たちは多くの利益を得ることができるのだと思います。

最後にインヴァスト証券のお客様へのメッセージをお願いします。

インヴァスト証券のお客様は私たちの理念をよく理解されています。それは、「結果は時間とともについてくる」ということです。私たちのストラテジーは長期運用に焦点を当てています。

インヴァスト証券のお客様方にストラテジーを提供できる機会をいただけて大変嬉しく思います。

from editor ▶ 今号でご紹介した年間人気ランキングで堂々4位にランキングした「Sphynx」。名前の由来は今まで秘密だったようですが、素晴らしいものができるはずという思いと、できあがるまでの労力の両方がエジプトのスフィンクスを作るイメージと重なり名付けたと聞くと、その名前に愛着が湧きますね。また、今回のインタビューの内容をSphynxの運用に

活かしていただければと思います。シストレ24に掲載されているストラテジーの名前はすべて英語なので、どうも馴染めないというご意見も聞かれます。しかし、そのストラテジー名には様々な思いが詰まっていると想像すると少し身近に感じていただけるのではないのでしょうか。

「ThirdBrain SA」について

創設は、2012年3月。ThirdBrainSAには、トレード部門と情報管理部門、翻訳部門の3つの部門があり、それぞれが利益を上げられる自動売買プログラムの開発にあっている。会社の創業者はCEOであり翻訳部門と情報管理部門を担当する「T. Zhyvylo」とCTOと開発や運用保守などトレード部門を担当する「P. Duvivier」の2名。各部門は

CEOが定めた会社理念を「Clever & Smart」をスローガンに掲げ、利益を上げられる自動売買プログラムの開発にあっている。主力製品は「ThirdBrainFx」だが、その他にも数々の人気ストラテジーを開発。

※掲載内容は、インタビュー回答時点の情報であり、その正確性、完全性を保証するものではなく、その売買を一切推奨するものではありません。※当該情報または意見に起因して発生するいかなる直接的、間接的または結果的損失についても、当社はいかなる責任も負いません。投資に関する判断の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。